

1 学校教育目標

○よく考えて 進んでやりぬく子 ○あかるく強く たくましい子 ○みんな仲よく 助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○確かな学力と豊かな心、健やかな体をはぐくむ学校 ・学力を定着させる学校 ・豊かな人間性をはぐくむ学校・体力・運動能力を高める学校 ・家庭・地域・学校が協力し合う学校
○児童・生徒像	○自信とやる気があり進んで行動し、互いに認め合い高め合う児童 ・様々なことにチャレンジし、目標をもって努力して課題を解決しようとする児童 ・思いやりの心もち、友達と仲良く、元気に生活する児童 ・共に考え、共に学び、協働して高め合うことができる児童
○教師像	○子供に最善の教育を行うために、子供と共に自ら伸びようと努力し続ける教師 ・敬愛され、児童・保護者・地域に信頼される教師 ・自己研鑽に努力を惜しまない教師 ・教育の専門職としての力量と誇りをもつ教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

○児童について

明るく素直で純粋な児童が多い。基本的な生活習慣・学習習慣に課題の見られる児童がいる。

○教師について

教職経験の少ない教師が半数近くを占める中、指導力向上は重要な課題である。またこうした課題は、他区から本校を2校目として異動してきた教師にも潜在する。今後、主力教員の人事異動に伴う自校での人材育成が大きな課題である。

○保護者・地域について

学校行事やPTA行事は十分実施できていないものの常に協力的である。学校教育や学力向上に関する関心をさらに高めていきたい。

<前年度の成果と課題>

重点的な取組事項－1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率80%以上=R2年度2科80.4達成

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす→教員の充実度100%=学校評価2.4/5 回数削減し不十分

重点的な取組事項－3 心の教育の推進 ○自他を尊重する気持ちと態度の育成をめざす→児童の肯定的な自己評価80%以上=学校評価3.5/5

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上並びに学力の向上	○	○	○	○	○

3	幼保小中の連携	○	○	○	○	○
4	心の教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●					
現学年での学習内容の確実な定着	到達度確認テストー通過率 (国算2科) 80% 令和3年度目標通過率 85%		自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝読書	全児童 国語	毎週 火水金 始業前 15分	【指導者体制】担任 【目的】読書の興味や読書習慣を身に付けさせる。	毎月1回、読書感想文やお薦めの読書を発表する。	低2500P 中5000P 高10000P	自己評価の際に記入		
継続	昼学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月 火木金 5時間 目前15分	【指導者体制】担任 【目的】学習内容の復習・確認を行う。	5月、12月、2月の3回、テストを実施	正答率 80%			
継続	放課後補習 教室	全学年 国算正答率70%未満、宿題未提出者	毎日	【指導者体制】担任+副担 【目的】学習内容の定着及び家庭学習の習慣化。	東京ベーシックドリルを活用した小テスト単元テスト再テスト	テストで全員が目標値を通過する。			
継続	ICT機器の有効な活用	全教科	随時	ICT機器の効果的な活用を推進する。	年3回中1回の授業観察時	ICT機器を使用した授業を行う。			
継続	家庭学習の定着と充実	全児童 国語 算数	毎日	【指導者】各担任 【目的】学習内容の定着及び家庭学習の習慣化。	毎日の家庭学習状況の点検と実施率把握	全員100%			

重点的な取組事項－２		授業力の向上並びに学力の向上 ～感染症対策を図りつつ、学力向上策を充実させ、定着を図る～			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
当該学年での学習内容の確実な定着		到達度確認テスト—通過率（国算２科）８０％ 令和３年度目標通過率—８５％	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイム	・朝読書（火、水、金） ・昼は基礎学習	・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し段階的に定着を図っていく。	自己評価の際に記入		
放課後補充指導・補習指導の充実	全学年原則毎日	・全校体制で指導に取り組む。系統化した内容を行う。			
プレジデントタイムの実施	管理職による個別指導	・毎昼休みの補充教室に下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。			
【指導力向上】 校内初任研、若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施	初任研、若手研、ミドルリーダー研各２０回 授業観察後の「アドバイスシート」内自己評価の確認と評価自己評価全項目Ｂ以上	【指導者体制】 初任、若手研（校長、主幹教諭、主任教諭）ミドルリーダー研修（副校長、主幹教諭） 【目的】授業観察を軸とした授業力指導力向上リーダーシップ力育成			

重点的な取組事項－3		幼保小中の連携 ～コロナ渦での可能な限りの連携の推進と円滑な接続をめざす～			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な連携ができたと考える教員100% 学校評価3.5以上 	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> 準備委員会2回 各校1回ずつ授業公開・研究 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の研究授業実施（年2回） 			
保育園との交流	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の保護者会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 年長保護者会での校長講話の実施（各園1回） 			
教員同士と児童、生徒同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の情報交換 年長、1年担任との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有会の開催（年2回） 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）